

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと健康 英語表記：Child and Health ナンバリング：2320		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目/系列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 / 保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等/教科目	領域に関する専門的事項・健康 / 保育内容の理解と方法		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康な姿とその発達について理解できる。 2. 幼児の安全な生活と怪我や病気の予防を理解できる。 3. 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる。			
【授業の概要】 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：乳幼児期の健康問題（健康の定義と乳幼児期の健康の意義） 第2回：乳幼児期の健康問題（乳幼児を取り巻く生活環境と健康） 第3回：乳幼児期の身体的発達の特徴 第4回：乳幼児期の生理的機能の発達 第5回：乳幼児期の生活習慣の獲得 第6回：乳幼児期の生活リズムの形成とその意義 第7回：幼児の安全教育と危険（リスクとハザード） 第8回：子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和安全管理 第9回：幼児期に起こりやすい怪我や事故の特徴 第10回：応急処置の基礎及び病気の予防 第11回：乳幼児期の運動能力の特徴（運動コントロール能力の発達） 第12回：乳幼児期の運動能力と特徴 （多様な動きの意味及び両者の関係） 第13回：日常生活における運動 第14回：遊びとしての運動		【授業時間外の学習】 ・豊かな暮らしが子どもの発達にどのように影響しているかについて、プラス面とマイナス面の双方から考え、まとめ、授業時に提出する。 （1時間） ・健康的な生活リズムについて、子どもたちにわかりやすく伝えられる絵本や紙芝居、ペープサート等の教材を作成して、授業時に提出する。 （1時間） ・保育の内容としてふさわしい伝承遊びを挙げ、その意義、遊び方についてまとめ、授業時に提出する。（1時間）	

<p>第15回：子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方 定期試験：筆記</p>	
<p>【授業の方法】 基本的に講義形式で授業を進める。学生の理解度を確認するため、授業内で出題されるレポートや課題について、個別に具体的なコメントを添えてフィードバックを行う。</p>	
<p>【テキスト】 『幼稚園教育要領』（最新版）、『保育所保育指針』（最新版） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育者をめざす保育内容（健康）』 『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』（池田裕恵（編）、杏林書院）</p>	
<p>【参考書・参考資料等】 『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子他、萌文書林）</p>	
<p>【学生に対する評価】 定期試験の成績（50%）、授業への取り組み・討論への貢献度（30%）、レポート（20%）として総合的に判断する。到達目標に対する達成度は、ルーブリックに基づいて判定する。</p>	
<p>【履修上の注意】 ・授業にあたっては事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。 ・レポートや課題提出は、期限を守ること。</p>	
<p>実務経験の有無：有</p>	<p>実務経験：地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所非常勤 研究員</p>
<p>【実務経験を生かした教育内容】 東京都健康長寿医療センター研究所における健康・医療研究の実務経験を活かし、人の一生涯における身体の形態的・機能的発達について体系的に解説する。特に、心身の発達が著しい幼児期に焦点を当て、各発達段階における特徴や支援方法について、具体的な事例を交えながら講義を展開する。これにより、発育発達に関する専門的知識と実践的な理解を深めることを目指す。</p>	